



部長先生インタビュー

札幌医科大学整形外科 山下 敏彦教授

札幌医科大学整形外科 江森 誠人講師・医局長

—— 同門会員で女性会員数は何名でしょうか？

現教室員 12 名、関連病院勤務（同門）13 名、計 25 名です。

—— 貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？

速やかに戻ることが可能です。

—— 初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますでしょうか？

メンター制度を導入予定です。

—— 専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？

専門領域は原則的に本人の希望通りに決まります。

—— 地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？

出張先については、パートナーの勤務地など、家庭の事情を考慮して決めています。

—— 専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？

国内留学制度はあり、それを利用した女性医師も実際にいます。

—— 育休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？

復職に当たっての支援は最大限行います。

—— 最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。

当教室では女性医師の占める割合が 13.5% と高いのですが、皆とてもアクティブに診療活動・研究活動を行っています。その多くが結婚・出産をしていますし、ライフワークバランスを上手にとっています。当教室では “She can do it!” を合言葉に女性医師は皆頑張っていますので、女性の学生・研修医の皆さんもぜひ整形外科医を志してください！